

ポイント

- 象徴空間の一層の具体化に向けて、政府において、「象徴空間基本構想」を早期に取りまとめるべき。
- 基本構想に盛り込むべき事項や今後の検討課題等を提示。

基本構想に盛り込むべき事項

【基本構想の位置付け】

- 象徴空間における当面の整備、取組等の基本的方向性を示すもの。

【象徴空間の位置・構成】

- 象徴空間は、北海道白老町、特に同町ポロト湖畔を中心とする地域に整備。
- ポロト湖畔を中心とする「中核区域」、周辺の「関連区域」で構成。

【象徴空間の機能】

- **アイヌの歴史・文化を学び伝えるナショナルセンター**
- ナショナルセンターにふさわしい、総合的かつ高度な取組を集約することを基本。子供から大人まで、アイヌの世界観・自然観等を学ぶことができるよう工夫。
- 北海道内外の各地で行われている文化伝承・人材育成の取組は、引き続き継続し、アイヌ文化伝承のすそ野を拡大。

【ポロト湖畔の土地利用計画(ゾーニング)】

- ポロト湖畔に①中央広場ゾーン、②博物館ゾーン及び③体験・交流ゾーンの3つのゾーンを設定。

①中央広場ゾーン

- 象徴空間来訪者の玄関口。
- ポロト湖等の豊かな自然を体感してもらうとともに、歓迎する場。

②博物館ゾーン

- 博物館を中心として、アイヌの歴史、文化等を総合的・一体的に展示。
- 実践的な調査研究、伝承者等の人材育成を併せて実施。

③体験・交流ゾーン:

- 伝統的なコタンの姿を再現。
- アイヌ文化の伝承活動や体験学習等の活動、国内外の文化との交流の場として活用。



今後の検討課題等

- 象徴空間における**具体的な取組内容**(文化伝承・人材育成、体験交流等)の**全体像**の検討・整理
- 整備・管理運営体制、整備すべき施設等の在り方等に係る検討・整理、(財)アイヌ民族博物館の人材・知見の活用
- 象徴空間に係る検討・準備体制の整備も含めた、国と関係自治体(北海道、白老町)等の連携・協力の一層の強化
- **アイヌ人骨**の返還や集約に向けた進め方等に関する速やかな検討 等